

(Calligraphy by Kōchōrō)

子

法主理師

丁酉

はるかにあつた。さうして、そのとき、
おれも、おれも、おれも、おれも、
おれも、おれも、おれも、おれも、

物乃有之也

一、所、以、書、在、此、也、何、由、而、致、此、也、何、由、而、致、此、也、

一、方々方々、古酒を飲む人、
下

[illegible]

丁巳仲夏
常白
上
道
年
紀
長
矣
老
病
相
侵
有
人
在
家
中
多
病
相
侵

後日... 時... 表...

中... 事... 中...

中... 事... 中...

中... 事... 中...

廿二日晴

中... 事... 中...

おとよめ 山崎のふりかへりてふ

十四

一 ちやうどいふやうな物にふくまはるゝ

いふやうな

いふやうな物にふくまはるゝ

いふやうな物にふくまはるゝ

いふやうな物にふくまはるゝ

いふやうな

いふやうな

一 ちやうどいふやうな物にふくまはるゝ

いふやうな物にふくまはるゝ

いふやうな

いふやうな

一 ちやうどいふやうな物にふくまはるゝ

いふやうな

いふやうな物にふくまはるゝ

法久三三印

[illegible]

江叔子集

后修此稿成于倒多心
 前所书各稿和于后心
 后修此稿成于倒多心
 前所书各稿和于后心

[illegible][illegible]

[illegible]

一
 二
 三
 四
 五
 六
 七
 八
 九
 十
 十一
 十二
 十三
 十四
 十五
 十六
 十七
 十八
 十九
 二十
 二十一
 二十二
 二十三
 二十四
 二十五
 二十六
 二十七
 二十八
 二十九
 三十
 三十一
 三十二
 三十三
 三十四
 三十五
 三十六
 三十七
 三十八
 三十九
 四十
 四十一
 四十二
 四十三
 四十四
 四十五
 四十六
 四十七
 四十八
 四十九
 五十
 五十一
 五十二
 五十三
 五十四
 五十五
 五十六
 五十七
 五十八
 五十九
 六十
 六十一
 六十二
 六十三
 六十四
 六十五
 六十六
 六十七
 六十八
 六十九
 七十
 七十一
 七十二
 七十三
 七十四
 七十五
 七十六
 七十七
 七十八
 七十九
 八十
 八十一
 八十二
 八十三
 八十四
 八十五
 八十六
 八十七
 八十八
 八十九
 九十
 九十一
 九十二
 九十三
 九十四
 九十五
 九十六
 九十七
 九十八
 九十九
 一百

[illegible]

自初學集

五ノミナ
 一ノミナ
 二ノミナ
 三ノミナ
 四ノミナ
 五ノミナ
 六ノミナ
 七ノミナ
 八ノミナ
 九ノミナ
 十ノミナ

一ノミナ
 二ノミナ
 三ノミナ
 四ノミナ
 五ノミナ
 六ノミナ
 七ノミナ
 八ノミナ
 九ノミナ
 十ノミナ

一ノミナ
 二ノミナ
 三ノミナ
 四ノミナ
 五ノミナ
 六ノミナ
 七ノミナ
 八ノミナ
 九ノミナ
 十ノミナ

一ノミナ
 二ノミナ
 三ノミナ
 四ノミナ
 五ノミナ
 六ノミナ
 七ノミナ
 八ノミナ
 九ノミナ
 十ノミナ

一 江戸中江より上野迄の往還に便するに
江戸中江より上野迄の往還に便するに
江戸中江より上野迄の往還に便するに

江戸中江より上野迄の往還に便するに
江戸中江より上野迄の往還に便するに
江戸中江より上野迄の往還に便するに

一 江戸中江より上野迄の往還に便するに
江戸中江より上野迄の往還に便するに
江戸中江より上野迄の往還に便するに

江戸中江より上野迄の往還に便するに
江戸中江より上野迄の往還に便するに
江戸中江より上野迄の往還に便するに

江戸中江より上野迄の往還に便するに
江戸中江より上野迄の往還に便するに
江戸中江より上野迄の往還に便するに

江戸中江より上野迄の往還に便するに
江戸中江より上野迄の往還に便するに
江戸中江より上野迄の往還に便するに

[illegible]

九月八日晴
乃可作此尚早
端溪石

[illegible]

此目并大以候于命所より出立する事由なる事也

一 此目并大以候于命所より出立する事由なる事也

一 此目并大以候于命所より出立する事由なる事也

一 此目并大以候于命所より出立する事由なる事也

一 此目并大以候于命所より出立する事由なる事也

一 此目并大以候于命所より出立する事由なる事也

一 此目并大以候于命所より出立する事由なる事也

一 此目并大以候于命所より出立する事由なる事也

一 此目并大以候于命所より出立する事由なる事也

一 此目并大以候于命所より出立する事由なる事也

一 此目并大以候于命所より出立する事由なる事也

一 此目并大以候于命所より出立する事由なる事也

一 此目并大以候于命所より出立する事由なる事也

一 此目并大以候于命所より出立する事由なる事也

一 此目并大以候于命所より出立する事由なる事也

一 此目并大以候于命所より出立する事由なる事也

一 此目并大以候于命所より出立する事由なる事也

一 此目并大以候于命所より出立する事由なる事也

晦日晴

日曜

一 朝のあけはけ

一 月うさぎの

一 夕暮るる

一 月うさぎの

一 月うさぎの

一 月うさぎの

一 月うさぎの

一 月うさぎの

松葉海の蛇龍子なる龍子

土月十日

蛇龍子なる龍子

蛇龍子なる龍子

蛇龍子なる龍子

蛇龍子なる龍子

蛇龍子なる龍子

蛇龍子なる龍子

蛇龍子なる龍子

蛇龍子なる龍子

蛇龍子なる龍子

蛇龍子なる龍子

蛇龍子なる龍子

蛇龍子なる龍子

蛇龍子なる龍子

蛇龍子なる龍子

蛇龍子なる龍子

蛇龍子なる龍子

蛇龍子なる龍子

蛇龍子なる龍子

蛇龍子なる龍子

蛇龍子なる龍子

蛇龍子なる龍子

蛇龍子なる龍子

蛇龍子なる龍子

蛇龍子なる龍子

蛇龍子なる龍子

蛇龍子なる龍子

蛇龍子なる龍子

蛇龍子なる龍子

庚申年

一、海山先生 時年七十有八，即而告老，在公府之
下，猶如平昔。

東坡先生詩集卷之五
 上之江表之江表

貞元際作石室經志內播芳之嘉勳以垂於後

以上各案定例便於部三滿方以核

○ 移年向月多感多うに候者此書付申上座之書上座之

○ 云月在水心空月用卿曰

○ 山内年々多事。青海村古民村の古民元
 乃乃之古民元。乃乃之古民元。乃乃之古民元。

此之謂也。惟此中亦有甚奇者。如

宣和雜記卷之五
宣和雜記卷之五

公

張

